



福島県知事
佐藤 雄平

“新生ふくしま”をめざして

東日本大震災の発生から現在に至るまで、国内外の多くの方々から寄せられている数々の御支援に対しまして、福島県民を代表して心から感謝申し上げます。

さて、当県に甚大な被害をもたらした東日本大震災から、まもなく2年を迎えようとしていますが、今なお、15万人余りの県民が県内外で避難生活を余儀なくされ、ふるさとで新年を迎えることができなかつた方々が数多くいることは、痛恨の極みであります。

しかしその一方で、国内外の皆様からの様々な温かい御支援により、当県は着実に復興への道を歩み始めています。

県では、こうした復興・再生に向けた歩みを加速し、かつ確実に進めていくため、今後8か年の復興目標を掲げ30年後の姿までを展望した新しい総合計画「ふくしま新生プラン」を昨年末に策定し、県民が夢や希望にあふれ笑顔に満ちる“新生ふくしま”を目指してスタートいたしました。

また、国際交流においては、震災と原発事故の影響などにより、一部の活動が休止となっている一方で、被災地に対する海外からの支援をきっかけに新たな交流も生まれています。医療機器関連や再生可能エネルギー産業における海外企業とのビジネス交流も始まっているほか、放射線に関する国際機関との連携・協働など、多くの分野において海外との結びつきが強まりました。震災や原発事故は当県に未曾有の被害をもたらしましたが、世界とのつながりを強く実感する機会にもなりました。

しかしながら、自然豊かなふくしまのイメージは海外においても原子力災害により深刻な影響を受けており、様々な風評を払拭するための正確かつ信頼性のある情報発信が重要課題となっています。そのため、復興状況や当県の魅力について、国際会議の誘致や、インターネット、マスメディア等を通じた情報発信のほか、外国出身県民などの人的ネットワークを活用した情報発信に取り組んでいるところです。

国内外の皆様からの多くの御支援と、一人一人の温かい気持ちは、大きな力となって、ふくしまの復興への歩みを支えています。

「感謝の気持ちを胸に努力を重ね、美しいふるさとふくしまを取り戻し、活力と子どもたちの笑顔があふれるふくしまを築き上げて、次の世代へと引き継いでいく」。このことこそが支援への恩返しとなると考えており、この難局を乗り越え、ふくしまの復興・再生を全力で成し遂げてまいります。